

会議録

1. 会議名	出雲市子ども・子育て会議 第2回 発達支援検討部会
2. 開催日時	平成26年3月10日(火) 18:30~20:30
3. 開催場所	出雲市役所本庁 3F 大会議室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>板倉明弘委員、廣戸悦子委員、原広治委員、及川馨委員、山崎彰子委員、江角美枝委員、長光悦子委員、藤原美保委員、名越真理子委員、福田明美委員、太田澄子委員(順不同)</p> <p>(欠席: 西郁郎委員、岸和子委員)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部次長(兼 子育て支援課長)、福祉推進課長、健康増進課長、学校教育課長、教育政策課幼児教育支援室長 ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 第1回部会について</p> <p>(2) ニーズ調査の結果について</p> <p>(3) 県の発達支援に関する取り組みについて</p> <p>(4) テーマ別討議について</p> <p>① 討議テーマについて</p> <p>② 出雲市の発達支援に関する主な取り組み等について</p> <p>③ 討議『気づき』</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
健康増進課長	<p>1 開会(健康増進課長あいさつ)</p> <p>第1回部会で委員の皆様から多くの意見をいただいたおかげで、発達支援を取り巻く諸問題が浮き彫りとなった。今回からテーマを絞って討議していく。また、今回は島根県の取り組みについても話していただく。皆様からたくさんの意見をいただければと思う。</p>
部会長	<p>前回、数時間の中ではあったが、たくさんのご意見をいただいた。より良い方向性をつけていきたいと思うのでよろしく願います。</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 第1回部会について</p>

事務局	<p>【資料1 第1回部会委員意見等について説明】</p>
部会長	<p>(2) ニーズ調査の結果について 調査結果については、今後の討議の参考としていきたい。</p>
事務局	<p>【子育て支援に関するアンケート調査報告書「10.子どもの発達について」について説明】</p>
部会長	<p>(3) 県の発達支援に関する取り組みについて 本部会の専門委員でもある島根県東部発達障害者支援センター長にご説明を依頼している。短時間で申し訳ないがよろしく願います。</p>
委員	<p>【資料3「島根県 発達障がい者支援の基本的考え方」を説明】</p>
部会長	<p>(4) テーマ別討議について 第1回の部会でお話ししたとおり、討議テーマを設定して、今後数回にわたって討議をしていきたいと思う。討議テーマについて事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>①討議テーマについて 【資料4 発達支援検討部会 討議テーマについて説明】 第1回部会の討議及び資料1の論点整理を踏まえて提案するものである。テーマ別討議の第1回目は「気づき」をテーマとし、次回以降は、「支える」、「つなげる」をテーマとして議論したいと考えている。テーマを設けても話が多岐にわたることが想定されるが、できるだけ視点を絞るために設定するものである。 討議テーマ「気づき」について説明する。第1回部会では発達について気になる子ども等の対応についての意見が多数あった。保育所、幼稚園、関係機関、乳幼児健診等は支援が必要な子どもに気づく重要な場となっている。また、家庭での保護者の気づき、幼稚園や保育所での気づきにどう寄り添っていくのか。それぞれの「気づき」を向上するとともに、その「気づき」を支えていくことが大切である。支援のきっかけとなる「気づき」をテーマとして、「気づく場」「気づく人」の視点から現状や課題を把握し、今後必要な取り組みの方向性を討議いただきたいと考えている。</p>
部会長	<p>只今の説明について、ご意見、ご質問があれば願います。</p>
部会長	<p>②出雲市の発達支援に関する主な取り組みについて それでは、先程の説明のとおり、この後「気づき」をテーマに討議いただく。討議に入る前に出雲市の取り組みを何点かご説明いただく。事務局から願います。</p>

事務局	<p>今回のテーマは「気づき」であることから、特に「気づき」の場面となるような事業として4つ紹介する。</p> <p>【資料2 出雲市の「気づき」に関する主な取り組み、資料5 出雲市の発達支援に関する主な取り組みについて説明】</p> <p>気づく場としては大きく捉えると「家庭（保護者）」、「幼稚園・保育所」、「母子保健事業（健診など）」等があると考えている。また、「気づく人」の例示を資料の下部に記載（保護者、保育者、教諭、医師、臨床心理士、相談員、保健師等）しているが、「気づく人」は「支える人」でもあると考えている。</p> <p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診、訪問事業（健康増進課） ・年中児発達相談事業（健康増進課） ・就学前健診（学校教育課） ・保育所巡回相談（子育て支援課）
部会長	<p>③討議『気づき』</p> <p>次のテーマ別討議の中で、今の事業説明も踏まえながら議論したいと思う。ご質問やご意見があれば討議の中でしていただき、事務局には適宜回答をお願いします。</p> <p>先程の説明にもあったが、議論のきっかけとなるよう、事務局が出雲市の気づきに関する事業の資料（資料2）も用意されている。「気づく場」や「気づく人」の視点から、現状や課題をお話いただく中で、今度必要な取り組みの方向性について討議いただきたいと思う。実際に気づく場面にいる方々を含めてお話を伺いたい。保育所や幼稚園の先生の立場からまず現状を伺いたい。</p>
委員	<p>保育所では0歳の頃から気づくこともある。睡眠・食事・人との関わりで子どもの様子が気になり、1歳頃に支援が必要だと確信をもつこともある。そんな時によく相談するのは保健師。保護者の了解を得て、子どもの様子を保健師に伝えて健診につなぐこともある。保護者は育てにくさを感じているが、育てにくさを話すことが怖いということもあり、そのような保護者を不安にさせずに話を聞いていく体制が大切であり必要だと思う。健診の場でいろいろな支えができ、丁寧な関わりができるのは保健師であると思う。不安を抱えている人にはサポートが必要であり、いろいろな支援体制などをコーディネートしてもらえと思う。健診が1歳6か月、3歳とあるが、3歳の頃は集団の中でいろいろ見えてくる部分があり、どこかに相談したい時がある。少しでも保護者にほっとしてもらえることが一番大切にしたい部分である。</p> <p>また、年中児発達相談モデル事業では、保護者に困り感があることに気づくことができた。困り感があることに気づいていなかった事例もあった。3歳から就学前まで</p>

	<p>の間は健診がないので、年中児発達相談モデル事業は保育者にとって良い気づきをさせてもらえると思った。事業を通じて、保護者を不安にさせることなく、保育者も子育てについて一緒に考えていく機会にしたい。この事業については、園の作業に少し作業に時間がかかったので改良していくといいと思う。</p>
部会長	<p>現状を伺ったが感想等あるか。</p>
委員	<p>小学校の場合だが、気になる子どもの保護者は今まで幼稚園や保育所から「少し心配なことがある」と言われたことがあるのだろうか、と思うことがよくある。小学校に入り、学校側から「お子さんのことが心配です」と伝えると保護者が驚かれる。しかし、「これまでまったく心配がなかったのか」と伺うと、保護者は前から心配していたと言われることがある。せつかく保護者が気づいているのであれば、早くにそれを安心に変えてあげることが必要だと思う。</p> <p>学校での授業においては、担任と子どもが目と目を合わせて、先生の話が聞けるかどうかなどの関係性がないと前に進まない。家庭の中では「いい子」と言われる場合があるが、何を基準に保護者は「いい子」としているのか考えることがある。それは保護者の気づきがないのではなく、保育や教育の現場にいる者が、何を気づかせてあげればいいのかを判断し、伝えることが大切な役割であると思う。私たち自身が研修などでレベルを高め、気づく力を養っていくことが必要だと思う。</p>
部会長	<p>現場の気づきを高める、何を気づかせてあげればいいのかという部分をもう少し説明していただきたい。</p>
委員	<p>集団生活と家庭では子どもを見る視点は当然違ってくる。集団の中で生活していくためには、例えば1対1で話のやりとりができるかどうかについて、家庭でできないのに、たくさんの人がいる中で先生と関係性をもってやっていくのは難しい。気づきの視点の違いを伝えていかなければいけない。</p>
部会長	<p>保護者は集団の視点はあまりないと思う。したがって、家庭ではいわゆる問題行動は気づかれないこともある。ところが集団に入った時には、気になる姿として現れる。集団の中で〇〇な部分がある、というのを就学するまでに保護者に伝えてあるのかどうか、というふうに捉えていくのがよろしいか。</p>
委員	<p>保護者にそのような状況を伝えることは大切だが、集団の中のことを家庭に持ち込むのは違うと思う。集団の中で育てていくのが学校や園だったりする。そういう視点で考えれば少し心配ということは保護者に伝えてほしいが、それ以上に、現場が気づく視点をもって子どもたちに接していく、どう支援していくのかを考えていくことがより大事だと思っている。</p>

部会長	<p>保護者に伝えることは大切だが、それを踏まえつつ、子どもを預かる学校や園でどう考えていけばいいのかということを知った。また、保育所では0歳から既に気づきがあり、睡眠や食事、人との関わりの部分から、健診につなげていくこともできる。健診の場で気づく場合もあるが、保育者からすると健診までのところで既に気づきがある場合があるため、繋げていくことが重要と知った。3歳児健診における相談に繋げていくこと、保護者の不安を安心に変えていけるようなシステムや事業が求められる。</p>
委員	<p>子育てサポーターは幼稚園等に入るまでの在宅児に関わっている。最初にあかちゃん声かけ訪問を行い、母親の育児不安や体調のことなどを伺う。気になる母親については地区担当保健師に伝えている。その後、4か月児健診や地区の子育てサークルで訪問した親子に再会する。毎日見ていたら分からないことも、月数回の子育てサークルでは〇〇ができるようになったね、〇〇が心配だね、と子どもの変化をみてスタッフ間で意見交換している。関わるスタッフがしっかり研修をして、分かっていないといけないと感じている。子育て広場でも、最近「子どもの様子が少し気になるね」などの声が多く聞かれるようになってきた。それは研修を受けた影響もあると思うので、研修などは大切だと思った。</p>
部会長	<p>気づくための研修、支える立場の者が対応できるような環境が必要である。同時に家族への気づきを促せる関わり方、子育て支援の関わる場所の課題であるように思う。</p>
委員	<p>日頃から保護者へどのように子どもの様子を伝えたらいいのかを悩んでいる。家庭での生活と集団での生活は随分と違う。集団での困り感は保護者には分かりにくい。気をつけていることは、子どもの困り感を「〇〇ができません」ではなく、「〇〇を支援したら〇〇できるようになった」という様に保護者に伝えている。そこで親は「〇〇できるんだ」と気づける。気づけるような言い方など努力しているが、保護者を傷つけないように子どもの困り感を伝え、より良い支援に繋げていくことは難しい。保健師や臨床心理士に相談したりして、いろいろな角度から保護者への気づきにつながるような支援をしてもらっている。</p>
部会長	<p>保育者の気づきの力の向上や保護者支援での研修のあり方等はあると思うが、その他に気づきを支えるためのもの、保護者の気づきに対して相談や次につなげるものなど具体的に提案があれば意見を聞きたい。</p>
委員	<p>幼稚園や保育所、相談機関で気づいて相談はするが、「〇〇すればいいよ」というような一過性であるように感じることもある。子どもと日々関わって支援しているの</p>

	<p>は現場である。それを継続的にサポートすることが大切だと思う。一回やってみよう と相談した後の結果がどうだったのか、改善点を考えるなど、一本筋の通ったもの があるとその子どもにとっても、現場にとっても安心できる。やっていることを振り返 る、より良いものに高めていくことができるのではないかと。継続的に見ていけるよう な相談体制ができるとういと思う。</p>
部会長	<p>相談する場面はあるが、その中身について工夫する必要がある。頻回に、定期的 に行うということも課題となろう。</p> <p>気づくための方法、親が気づく、周りが関わりから気づくというふうにあるが、関 わるスタッフは大方気づいていると思ってよろしいか。気づいているならば、どう繋 ぐか、保育の質をどう高めるのかなど、その先の「支える」の部分に入る。現在ある 周りの資源をうまく使えば大方気づけるということか。</p>
委員	<p>今まで伺った中には父親の存在が出てきていないが、診察や健診の場面で以前より 父親と一緒に来ることが多くなった。両親の片方だけに重心がいくというのは家庭内 でトラブルなど出てくるのではないかと懸念している。現状はどうなっているのか。</p>
部会長	<p>健診等で関わる保健師の立場ではどう感じているのか。</p>
事務局	<p>健診や発達クリニックなどにも父親が来ることが以前より多くなったと感じてい る。健診などは平日であるが、両親どちらかが休みを取って来ることや両親で来るこ ともある。支援を検討する際に父親の存在は大きい。母親が家庭で孤立しないように サポートするのは父親の大きな役割だと思っている。</p>
部会長	<p>母親以外の家族の気づきをどう考えていくのか、子育てにとって大切なことである とするならば、その部分をどう深めていくのか。幼稚園や保育所、事業者にとってそ の視点を踏まえた支援が重要だと思う。</p>
委員	<p>「気づき」について、健診や幼稚園・保育所・小学校でもいろいろなシステムがあ ると分かった。保育所巡回の事業説明でもあったように、保育所によって気づきに差 があるため、保育所のスキル、相談につなぐまでのスキルを高めることが必要と感じ ている。先ほど話があったように、母親が1人で悩んでいると子どもに影響するため、 父親を含めた家族での支援が必要だと思う。</p> <p>先般、小学校入学前の子どもの相談があった。相談のきっかけは友達とのトラブル が多いことだが、幼稚園でも以前から気になっていた子どもだった。相談後の「私は これからどうしたらいいのか。」という言葉に相談後の見通しがとても求められてい ると思った。不安を安心につなげるというところで、保護者は相談をするが、その後 どうしたらいいのか分からない。継続的なサポートに繋がってくる。寄り添って一緒</p>

<p>部会長</p>	<p>に歩んで行けるようなサポートづくりがあるといい。相談支援専門員という仕事は「気づき」というより「支える」「つなげる」の部分が大きく、つながれば継続的なサポートはできるが、繋がらないというところは大きな課題だ。先ほど保育所巡回相談の説明を伺い、専門的に話をしてもらえることはとても良いと思ったが、マンパワー不足で本当に大変だろうと感じている。</p> <p>保育所巡回相談のマンパワー不足、要するに専門的な相談員を増やししながら、より細かな対応が必要だということを伺った。</p> <p>先ほど話には出なかったが、気づけない園、気づいているが対応が違う園に関しては研修が必要となるだろうが、次回の「支える」についての討議の時にお話していただくと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>園で気づいていても、保護者に気づいてもらえないこともある。子どもの支援だけでなく、家族支援が必要な場合は対応が難しい。うまく伝わらない家庭もある。「一緒に考えていこう」、「困ったことがあったら伝えてね」、「小学校入学後も私たちはここにいるよ」、「ちょっとでも困ったことがあったら相談してね」、というようなサポートをしている。私たちだけでなく、違う目から見てもらえるところ（相談員など）があると、自分達も整理できるし支援に向けて動くこともできる。家族支援が必要な場合は少しずつ、ゆったりとした気持ちで支えていくしかない。焦ることなく、じっくり相談できる場があるといいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>気づいてもらえない家庭があり、どうしてだろうと感じることもある。保護者に伝えても子どもの状況の受け止めだけでなく、家庭生活そのものの困り感もあるのではないかと思う。そこを保護者に気づいてもらえるかどうか悩みである。保育者は発達についての専門的知識が弱いので、専門的なことを補足していかなければならないと感じている。</p>
<p>部会長</p>	<p>違う視点から見てくれる人や場が必要であるということ。家庭支援など難しい事例が出てきたときに相談を受ける場、保護者が相談できる場もだが、機関として、幼稚園や保育所にもそういう場所が必要だと伺った。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者の気づきがあり、連携していく必要があると理解したうえで、「子どもへの支援をどうするか」を考えていけば、現場（各小学校）でやるべきことがみえてくる。保護者も子どもが困らずに安心して学校生活を送ることを望んでいる。学校として、その子のために「〇〇をやってみようと思っている」ということに対して、「それはやめてください」という保護者はあまりいないと思う。ニーズ調査結果には、子どもの発達について、学校の支援など期待されていることの数値が出ていたが、保護者の理解が得られない場合は、学校は学校でやるべきことを考えていかななくてはならな</p>

部会長	<p>い。学校は、その子に対して何ができるかを考えるためには気づきが必要だが、学校だと職員が子どもの暮らしにくさを見抜けるかどうか。学習とは異なる視点から気づけるような力を養っていく必要性を感じている。</p> <p>気づきの精度を上げる旨の話があった。子ども又は保護者が困っていて、それに気づくことができ、さらにその上で「〇〇ができるんじゃないか」とイメージできるようなセットの気づきをそれぞれの職員が持っている組織体であり、尚且つそのための研修会があるといい。</p>
委員	<p>発達障がいについて現場で対応されている方の話を聞き参考になった。前回は早期支援、早期発見の対策についての課題があったが、気になったのは健診の受診率や未受診のフォローはどうしているのかということ。就学前までに全く受診していない子どもについてはどうしているのか伺いたい。また、保育所の取り組みを聞かせてもらったが、幼稚園での取り組みを聞きたい。</p>
事務局	<p>未受診者の理由や人数は把握している。未受診者に対しては再度1～2か月後に案内を郵送したり、地区担当保健師が電話や再訪問をしたりするなど対応している。3歳児健診が未受診の場合は、その後の健診がないため保育所や幼稚園での状況を把握している。在宅で未受診の場合は保健師が訪問等で把握しているが、市外転出や外国在住の事例などもある。3月から4月のところで未受診者全員の把握をするように努めている。健診の受診率を高めることも大切だが、未受診者の中でいろいろな家庭事情が関係していることもあるため、把握は今後も続けていきたいと思っている。</p>
委員	<p>100%把握をしているか。</p>
事務局	<p>100%の把握を目指している。年度中途と年度末に確認し、個人通知、電話、訪問等を行っている。社会養護的にも居所不明の子どもの把握を含めて未受診者対策は重要だと思っている。</p>
委員	<p>先日、県の児童虐待研修会の中で各市に未受診者がいるが、予防接種も健診も全くしていない人への対応はどうしたらいいのか、という話題になった。そういう人はほとんど反応なく拒否をしてしまうことが多いが、これはいわゆるネグレクト、虐待のひとつとして扱える。予防接種などを受けていないと本人にとって不利益になること（学校側が登校を拒否、海外での入国拒否など）を具体的に伝えてあげることで気づくことができるのではないかと。不利益になることを伝えていかなくてはいけないと思う。</p>
部会長	<p>未受診や健診の話があったが、その中で親は気づいていないかもしれないという話</p>

委員	<p>があった。事務局が説明した事業の精度を向上させることも必要になる。どう高めていくか、もっとこうすればいい、というような「気づき」に関する意見があればお話しいただきたい。またその話を提示して議論させてもらうことで、利用者あるいは市民の立場から提案ができたらと思う。幼稚園での取り組みについてはいかがか。</p> <p>幼稚園は3歳からの入園が多い。3歳で初めて集団生活をし、その子どもにとっての困り感を幼稚園の職員が気づいて、保護者から家庭での様子を聞きながら園での生活の様子を伝えている。保護者にとって安心できる伝え方が一番大切だと思う。今までの生活の状況をしっかり聞きながら、一緒になって集団の中でどうやってその子どもを支えていくかを考えて、保護者へ返していく。幼稚園も保育所と同じような取り組みをしている。私たちの保護者へ返していく役割、正しく返していく役割がまだまだ課題だと感じている。</p>
部会長	<p>これにて議事を終了する。予定時間が過ぎてしまったが、委員の皆様へ感謝申し上げます。システムをどうするのか、巡回相談をどうするのかなど具体的なところまでは出てきていないが、そのような話があればまた事務局に伝えていただきたい。</p> <p>なお、3月24日には、子ども・子育て会議の「本会議」が予定されており、当日は部会長として発達支援検討部会の協議状況について報告することになっている。</p> <p>それでは事務局に進行をお返しする。</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>次回の開催予定についてご連絡する。</p> <p>第3回部会は、新年度の5月頃の開催を予定している。日程調整のうえ、改めてご案内をさせていただくので、ご出席をお願いします。</p>
事務局	<p>4 閉会</p> <p>委員の皆様、長時間にわたり感謝申し上げます。</p> <p>今回は「支える」をテーマ討議していただく予定にしている。「支える」といっても様々な場面、状況があると思うが、支援が必要な子どもや保護者に寄り添い支えていくために、今後必要な取り組みの方向性を議論いただきたいと考えている。</p> <p>以上をもって本日の会議を終了する。</p> <p>会議終了</p>